
令和４年度 第２回豊田市上下水道事業審議会 会議録

【日時】 令和４年６月２０日（月） 午後１時３０分～３時

【場所】 豊田市役所 南５１会議室

- 【次第】
- １ 会長あいさつ
 - ２ 議事
 - （１）報告事項について
 - ①令和３年度決算について
 - ・水道事業会計、水道水源保全事業特別会計、下水道事業会計
 - ②豊田市水道事業への市民理解を深める取組
 - ・とよたNOW 特集映像紹介
 - （２）今後の財政収支見通しについて
 - ・現経営計画の概要と評価、財政収支の見通し
 - ・水道の使用に関するアンケート結果
 - ３ 事業管理者あいさつ

【出席者】 <委員>

竹内 信仁（名古屋大学名誉教授）	※会長
中山 恵子（中京大学経済学部教授）	※副会長
神頭 広好（愛知大学経営学部教授）	
松本 嘉孝（豊田工業高等専門学校准教授）	
杉本 敦子（豊田商工会議所女性会会長）	
吉橋 一典（豊田市区長会理事）	
松原 秀敏（豊田市小中学校長会）	
石橋 博文（豊田加茂薬剤師会監事）	
野々山 輝美（あいち豊田農業協同組合女性部長）	
増田 比呂子（足助地域会議委員）	
安藤 ひろみ（下山地域会議委員）	
大島 年春（稲武地域会議会長）	
城金 茂樹（公募委員）	
青木 厚子（公募委員）	

<事務局>

前田 雄治（豊田市事業管理者）
成瀬 光明（上下水道局局長）
田中 統（上下水道局副局長）
下川 涼太郎（上下水道局総務課長）
澤田 亜紀（上下水道局経営管理課長）
岡田 政彦（上下水道局企画課長）
山本 直彦（上下水道局料金課長）

澤田 善之（上下水道局水道整備課長）
河合 保幸（上下水道局水道維持課長）
岩田 裕二（上下水道局上水運用センター所長）
堀江 莊平（上下水道局下水道施設課長）
竹村 浩一（上下水道局下水道建設課長）

【傍聴者】 なし

【議事等の摘要】

1 会長あいさつ

- ・ 本日は、大変お忙しい中、御出席をいただきありがとうございます。
- ・ 第2回は、令和3年度決算を踏まえた今後の経営見通しについての説明を受け、水道料金見直しが必要かどうかを検証してまいります。
- ・ 皆様の活発な御発言をいただきながら、円滑な議事進行に御協力をお願いします。

2 議事

（1）報告事項について

○事務局

- ・ 資料に基づいて説明

（2）今後の財政収支見通しについて

○事務局

- ・ 資料に基づいて説明

○A委員

- ・ 給水人口の減少や節水意識の高まりなどから、使用水量や料金収入が減少するという説明と、前回の説明にあった、大口使用者の使用水量が減少傾向である点について、どのようにとらえればよいか。

○事務局

- ・ 平成19年度と令和3年度の使用水量実績を口径別に比較した結果、大口使用者の使用水量が減少している実績があることを前回説明した。そのような傾向と、給水人口が年々減少している状況から今後の使用水量を推計しており、いずれも使用水量の減少傾向を示すものととらえている。

○B委員

- ・ 財政見通しでは、収益的収支は令和5年度から赤字、内部留保資金は令和11年度から赤字となる状況を危機的だと理解したが、他市も同じような状況なのか。

○事務局

- ・ 豊田市はおっしゃるとおり、非常に厳しい状況である。豊田市に限らず、多くの自治体で人口減少による料金収入への影響を受けている状況である。

○C委員

- ・ 豊田市の人口ビジョンとは見込み方が異なるようだが、給水人口が減少していくと見込んだ理由をもう少し説明いただきたい。

- ・また、水道ストックマネジメント計画による管路更新を40年間で年平均15億円かかるという前回の説明と、令和5年度から4年間で年平均約15億円、8年間で年平均25億円の管路更新を行うという説明について、どのように理解すればよいか説明いただきたい。

○事務局

- ・給水人口の算定は、総務省の「経営戦略策定・改定マニュアル」にある算定方法で、「国立社会保障・人口問題研究所」の分析傾向を、豊田市の人口数に加味して想定した。
- ・管路更新にかかる費用について、40年間の年平均と令和5年度からの8年間の年平均で差が出ている理由は、目標耐用年数による管路更新を令和9年度からの4年間に多くの管路更新の実施が必要なためである。

○D委員

- ・豊田市は市域が広く、集積のメリットを生かせる地域での水道事業とそうではない地域での水道事業では、費用対効果に差が出る。また、水道事業を取り巻く環境はどんどん変わるということも考慮しながら、水道事業の基盤強化に向けた取組も踏まえ、長期的な視点で料金案を検討する必要があると考える。

○事務局

- ・経費削減の取組には、時間がかかるものがあるが、32ページの取組と基盤強化につながる取組をしつつ、水道事業の基盤強化に向け更なる推進を図るとともに、市域全体を見ての料金の検討をしていく。

○A委員

- ・水道料金の算定対象期間である令和5年度から4年間の間に赤字となる状況で、料金案の検討が必要であるが、この期間のみではなく、もう少し長期的に収支が改善される料金改定案とも比較しながら、料金改定案や改定時期を決定することが必要と考える。

○事務局

- ・料金算定期間は4年ごととなるが、料金改定案の決定においては、長期的視点で、わかりやすく比較できるような改定案を示したうえで協議していく。

3 事業管理者あいさつ

- ・本日は審議ありがとうございました。今後の財政収支見通しは明るくなく、対策が必要な状況を御理解いただけたと考えています。
- ・委員の発言にもありましたとおり、財政収支見通しの期間によって、料金改定の幅は大きく変化します。世代間の公平性といった観点も踏まえ、いくつかの考え方を審議いただきたいと思います。
- ・大変な審議が続いてまいりますが、今後ともよろしくお願いします。本日はどうもありがとうございました。

午後3時00分終了